



問 町の「地域支え合い協議体」と「地域包括ケアシステム」について

答 支え合いを支援していく

問 高齢者が一人であっても住み慣れた地域で自立した日常生活を営むことができるようサポートする「地域支え合い協議体」と「地域包括ケアシステム」の現状と課題は。

健康福祉課長 地域支え合い協議体とは、急速に高齢化が進んでいる中で、地域の実情を把握し、不足するサービスなどの資源開発・関係機関のネットワークを構築しながら、地域のニーズに合った取組みを構築していくための団体である。町では、地域包括ケアシステムの強化・拡充に向け、関係機関と連

携を図っている。

町長 住民の高齢化が進み、介護でお世話になる方も増えることから、隣近所・地域が本来持つ役割や支え合いをしっかりと支援していく環境づくりを進め、協議体の今後の展開に大いに期待したい。



問 持続可能な町の行政サービスについて

答 単独で持続可能なまちづくりを進めていく

問 この10年の人口減少率、一人あたりの行政サービスの経費、人口減少による、これからの財源の見通しと広域的に運用していく社会保障の行政サービスのメリット・デメリットは。若者人口の増加が見込めない中、団塊の世代の減少により思い切った行政改革をするのか。また、近い将来合併はするのか。

政策財務課長 町の人口は10年で10%減少した。平成27年度末人口8,930人、全会計歳出決算額76億2,131万円であることから、住民一人当たり85万3,000円。今後、少子高齢化による医療費や介護給付・公共

施設等の維持管理経費の増加が見込まれ、住民一人当たりの決算規模は上昇すると予想される。

町民税務課長 少子高齢化が進み、就業、社会環境の変化等、国保制度は構造的に問題を抱えることになった。広域化のメリットとしては、小規模保険者として不安定だった財政基盤が安定化する。デメリットは、広域化に向けた事務負担があげられる。

町長 合併は考えず、単独で持続可能なまちづくりを進めていくために安定した財源確保、働く場の創出、これらを含めた

インター周辺開発事業を一体となって進めているところである。

近隣自治体総人口

古河市	144,394 人
境町	24,481 人
幸手市	52,500 人
久喜市	154,292 人

(平成28年10月1日現在)